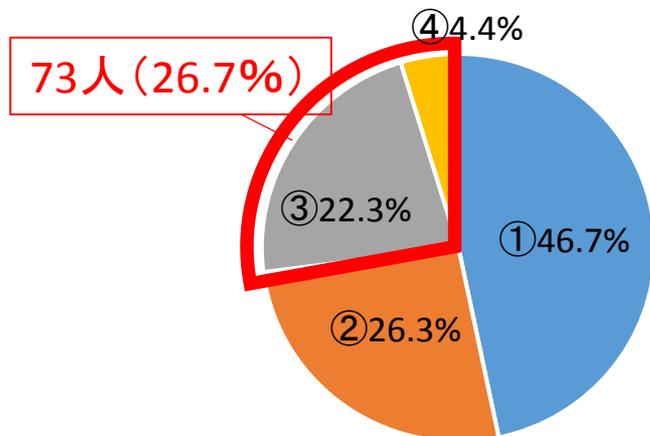


【現状】

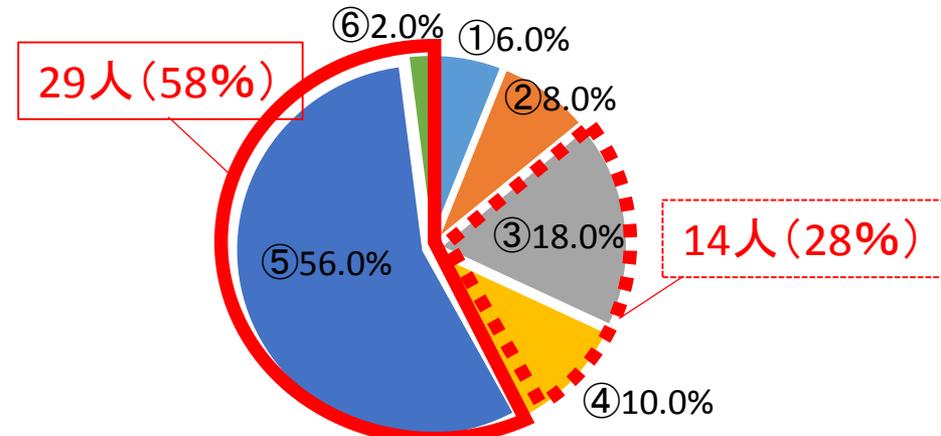
- お薬手帳の持参状況の調査(平成29年度県政モニターアンケート)の結果によると、紙で1冊又は電子版のお薬手帳を持っている人で、医療機関や薬局へ持っていない人や持っていないことが多い人は26.7%であった。
- 紙で複数又は紙と電子版のお薬手帳を持っている人で、医療機関や薬局へ持っていない人や持っていないことが多い人は58.0%であった。また、一部のお薬手帳のみを医療機関や薬局へ持参している人は28.0%であった。

⇒ **お薬手帳が正しく活用されていない。**

【紙で1冊又は電子版を持っている人の持参状況(n=274)】 【紙で複数又は紙と電子版を持っている人の持参状況(n=50)】



問	人	%
① いつも持っていく	128	46.7
② 持っていくことが多い	72	26.3
③ 持っていないことが多い	61	22.3
④ 持っていない	12	4.4
⑤ 無回答	1	0.4



問	人	%
① 全てをいつも持っていく	3	6.0
② 全てを持っていくことが多い	4	8.0
③ 一部をいつも持っていく	9	18.0
④ 一部を持っていくことが多い	5	10.0
⑤ 持っていないことが多い	28	56.0
⑥ 持っていない	1	2.0

お薬手帳の活用促進事業

【目的】

お薬手帳の持参を促し、薬局における服薬情報の一元管理を促進する。

【取組】

お薬手帳を持参することの意義やメリットについて普及啓発するためのリーフレット及びお薬手帳の持参を促す「ポケット付きお薬手帳ホルダー」(保険証、診察券などと併せてお薬手帳を携行できる)を重複服薬者に送付する。

●送付対象者の抽出条件

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、平成30年4月から7月までの間に、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品の処方を受けている者で、以下の者を除く。

- ・がん、認知症、うつ、統合失調症の者
- ・死亡している又は資格喪失している者
- ・住所が県外の者(県外施設入所者)

●送付者数 10,344名(平成30年12月に送付済み)

○送付対象者からのご意見

- ・ホルダーは便利なので自分以外の家族の分も送ってほしい。(10件)
- ・お薬手帳はきちんと活用しているのでホルダーは不要。税金の無駄遣いは止めてほしい。(1件)

●今後の予定

○効果解析

- ・送付後3か月(平成31年1月～3月)における抽出条件該当者の増減や送付対象者のお薬手帳の持参状況を確認。
- ・送付対象者の抽出時(平成30年4月～7月)から一年後(平成31年4月～7月)の処方変化を確認。

○事業の継続

効果解析の結果を踏まえ、抽出条件や抽出期間を検討して新たな対象者に送付を行う(平成31年度)。



～お薬手帳は一人一冊に～

参考：普及啓発用リーフレット

- ◆お薬手帳は、あなたが安心してお薬を使用するための大切な記録です。
- ◆医師・薬剤師が治療にかかわる上で重要で欠かせない情報です。
- ◆薬の重複やよくない飲み合わせを未然に防止できます。

- ・医療機関や薬局にはお薬手帳を必ず持って行きましょう。
- ・体調の変化や気になったこと、医師や薬剤師に相談したいことを、お薬手帳の余白などに書いておきましょう。
- ・飲んでいるすべての薬を一冊で記録することが大切です。病院や薬局ごとにもらったお薬手帳は『一人一冊』にまとめましょう。



「お薬手帳ホルダー」は、保険証・診察券などをいっしょに収納できます。ぜひ、ご活用ください。



- ・現在飲んでいるお薬で気になることがありますか？
副作用のこと、飲みにくさのこと
他のお薬や食べ物との飲み合わせのこと
- ・自分の飲んでいるお薬が多いと感じますか？
- ・お薬はできれば減らしたいと感じますか？
- ・別々にもらったお薬が重複していないか確認してみませんか？



お薬のことで、気になること、相談したいことがございましたら、医師・薬剤師にご相談ください。